

## 第IV期 第3回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2024年12月16日（月） 13時00分～14時12分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高橋慶太郎委員、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、齋藤正雄委員、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）石原安野委員、高田昌広委員、濤崎智佳委員、渡邊誠一郎委員

（台内）生駒大洋委員、都丸隆行委員

陪席：

（台外）河野孝太郎教授

（台内）土居守台長、藤田常事務部長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長、飯田直人国際学術係長（Zoom）

### 1. 確認

#### 1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

出席者の確認を行った。

#### 1.2 第2回議事抄録の確認

11月20日に開催された第2回国立天文台科学戦略委員会委員会の議事抄録（案）について説明があり、一部修正のうえ承認された。

### 2. 報告と議論

#### 2.1 将来シンポジウム

##### 2.1.1 将来シンポジウム開催報告およびSOC委員長所感

12月3日～6日に開催された国立天文台将来シンポジウムに関して参加状況、議論の概要、アンケート結果及びSOC委員長の所感について報告があり、意見交換を行った。

（主な意見交換）

ーサイエンスロードマップに載らなかったとしても、様々なファンドの話が出た際に国立天文台執行部がタマとして使えるバイブルにできると良いというポジティブな議論もあった。人によって捉え方が異なっており、うまく伝えていけると良い。

ーフロンティア事業は中期計画とタイムスケールが異なる。学術審議会の承認を得ており、国際的な縛りも大きいため位置付けに注意が必要である。

ーフロンティア事業も概算要求を毎年行っている。既に認められている内容でも提案書では戦略をしっかりと示してもらい必要がある。

ーフロンティア事業には、こういうサイエンスをどの装置で実施すべきかといった議論を行う際、比較できるようなしっかりした記述を出してもらいたい。

ープロジェクトベースの提案とは質が異なるが、理論系の人材リソースの増強としての拠点形成のような提案にもサイエンスロードマップにおける立ち位置があると良い。

ー拠点形成として提案があったのは次世代のメインストリームとしてサイエンスロードマップの底流となるようなものである。今後国立天文台として進めていかなければならないものとして、個々のプロジェクトと相補的に位置付けることが出来るのではないか。

ー拠点形成のようなバックグラウンドとなる提案は天文学会のロードマップのほうでアピールしてもらおうという考え方もある。よりジェネラルな天文学会のロードマップとの境界領域をどうするかという観点で検討することも大事である。

ー拠点形成には個々のプロジェクトを結びつけるという機能もあり、天文台全体としてのサイエンスを押し出す際に非常に重要な考え方である。うまく調整できると良い。

以上